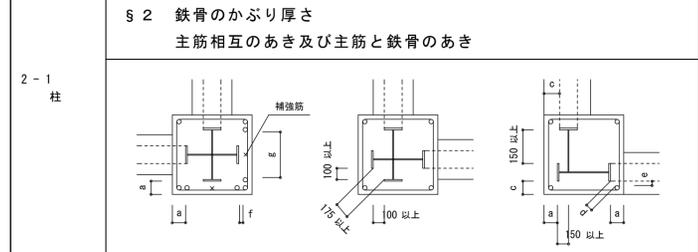


鉄骨鉄筋コンクリート構造標準図 2025年度版

1-1 適用範囲

§1 一般事項

本標準図に記載なき事項は、鉄筋コンクリート構造配筋標準図（RC標準図）及び鉄骨構造工作標準図（S標準図）による。特記なき限り単位はmmとする。

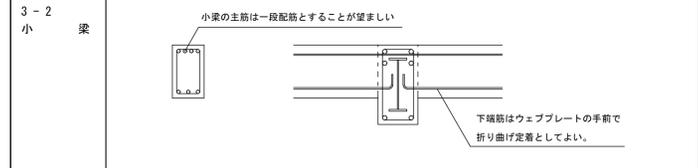
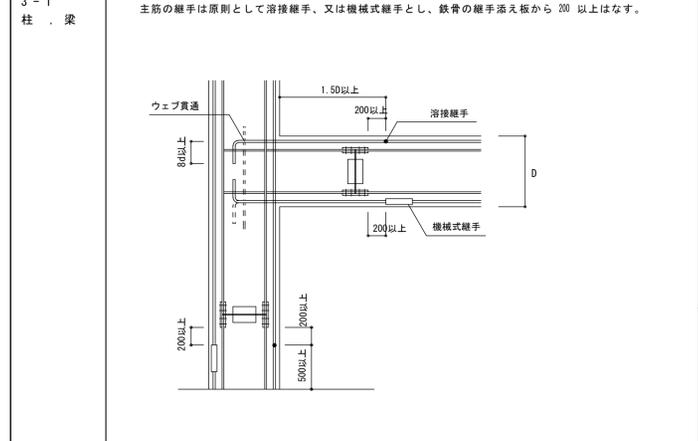


§2 鉄骨のかぶり厚さ
主筋相互のあき及び主筋と鉄骨のあき

- 鉄骨のかぶり厚さaは125以上、bは125以上、cは125+柱の主筋径以上とする。ただし、主筋の径、鉄骨断面の大きさ、せん断補強筋のフックの長さ、コンクリートの充填性等を考慮して、適切な寸法とする。
- 主筋と鉄骨のあきは25かつ粗骨材の1.25倍以上とする。ただし、施工性を考慮してd ≥ 40、e ≥ 30とするのが望ましい。
- 鉄筋相互のあきは25かつ粗骨材の1.25倍以上かつ呼び径の1.5倍以上とする。ただし、やむを得ない場合はD25で32、D29で35としてよい。
- 主筋のあきが300以上ある場合はφ300以内に補強筋（D13以上）を入れる。ただし、定着はしなくてよい。

3-1 柱・梁

§3 主筋の継手、定着



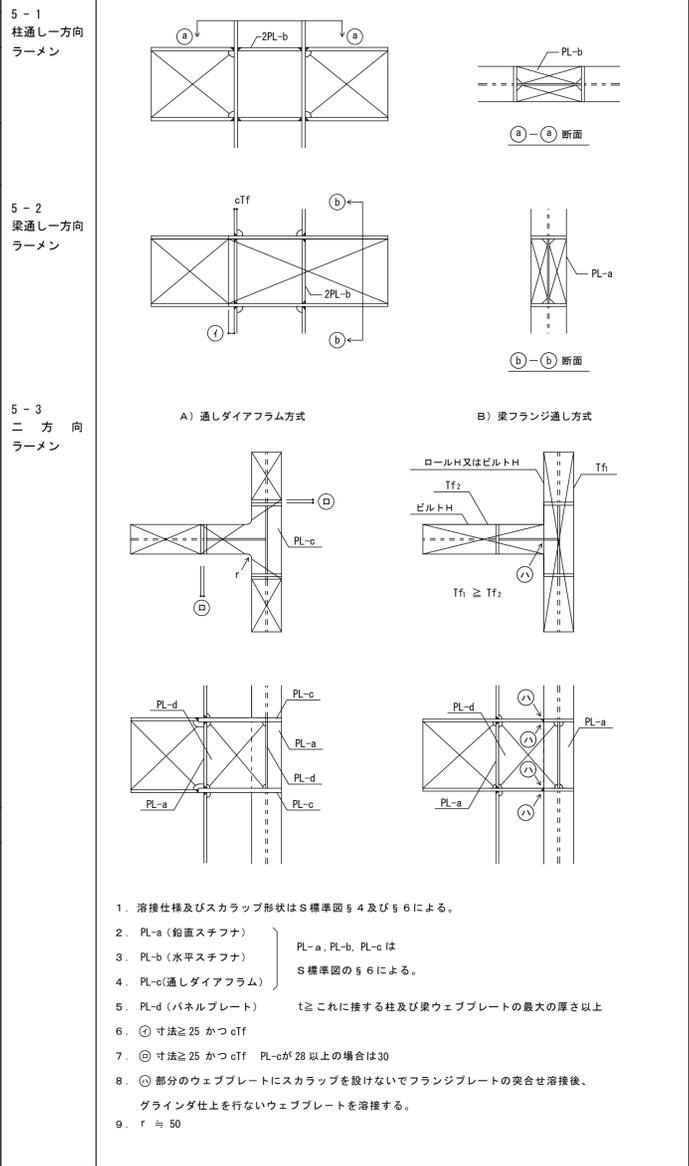
4-1 貫通孔

§4 鉄筋の貫通孔

鉄筋径	10	13	16	19	22	25	29	32
貫通孔	21	24	28	31	35	38	43	46

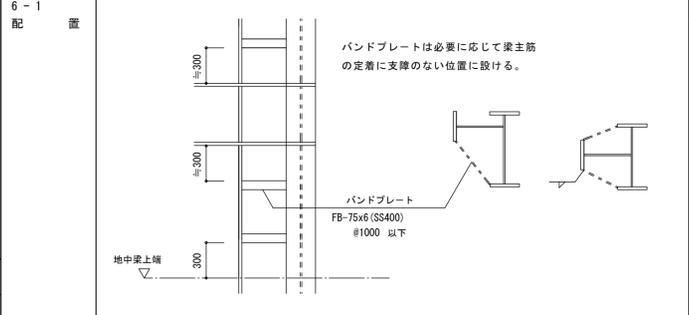
- 梁の主筋は原則として柱フランジプレートを通させない。
- 梁の主筋が柱及び梁ウェブプレートに当たる場合はこれを貫通させる。ただし、柱の中心線をこえて折り曲げることができればこの限りでない。
- 梁のウェブプレート、ガセットプレートに当たる帯筋はこれを貫通させる。
- 梁の主筋孔が水平に3個以上並ぶ場合は穴内に補強プレート（母材と同厚、同種）を設ける。
- スカラップ端から25以上、溶接ルート部にかからないよう懸す。

5 柱、梁仕口部



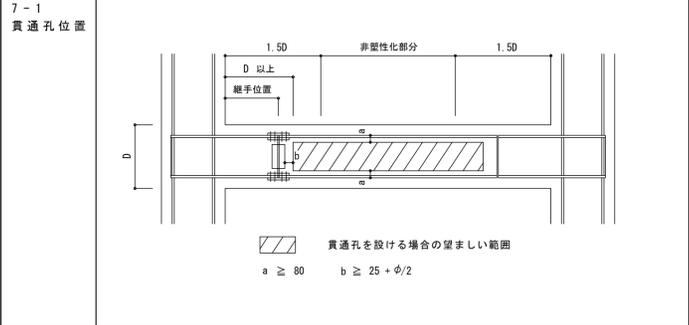
6-1 配置

§6 バンドプレート



7-1 貫通孔位置

§7 梁貫通孔補強



7-2 貫通補強

1. 貫通孔100φ以上はすべてスリーブ（STK400）を設ける。

貫通孔	スリーブ
100	φ114.3 x 4.5
125	φ139.8 x 4.5
150	φ165.2 x 5.0
175	φ190.7 x 5.3
200	φ216.3 x 5.8
250	φ267.4 x 6.6
300	φ318.5 x 6.9
350	φ355.6 x 7.9

2. 貫通孔は1/3Dかつ0.5H以下。ピッチは3φ以上を標準とするが、非塑性化部分では0.4Dかつ0.7H以下としてもよい。

7-3 補強プレート

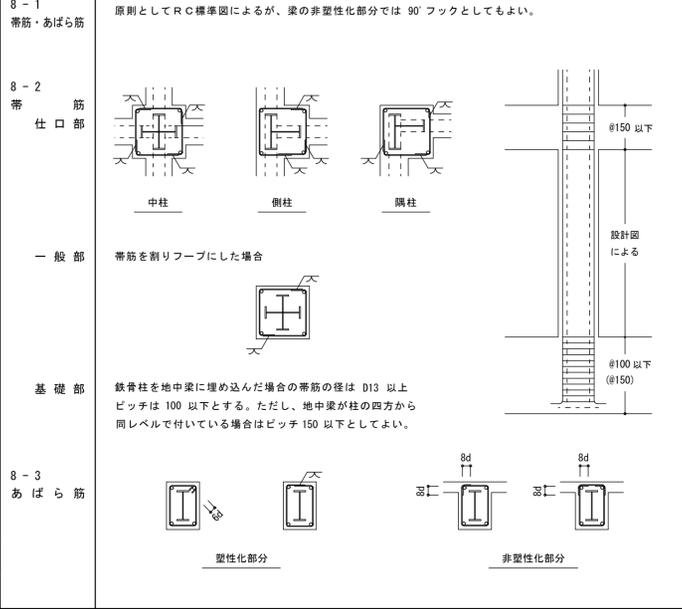
補強プレートの大きさはS標準図 §9による。（プレートの材質は母材と同種）

タイプ	補強プレート	PL厚さ
(0.1H < φ ≤ 0.2H)	なし	
(0.2H < φ ≤ 0.28H)	1枚（片面）	ウェブ PL 厚さ X0.5 以上
(0.28H < φ ≤ 0.4H)	1枚（片面）	ウェブ PL 厚さ X1.0 以上
(0.4H < φ ≤ 0.5H)	2枚（両面）	ウェブ PL 厚さ X1.0 以上

0.5H < φ ≤ 0.7Hの場合は下図の形状とするが、詳細は設計図による。

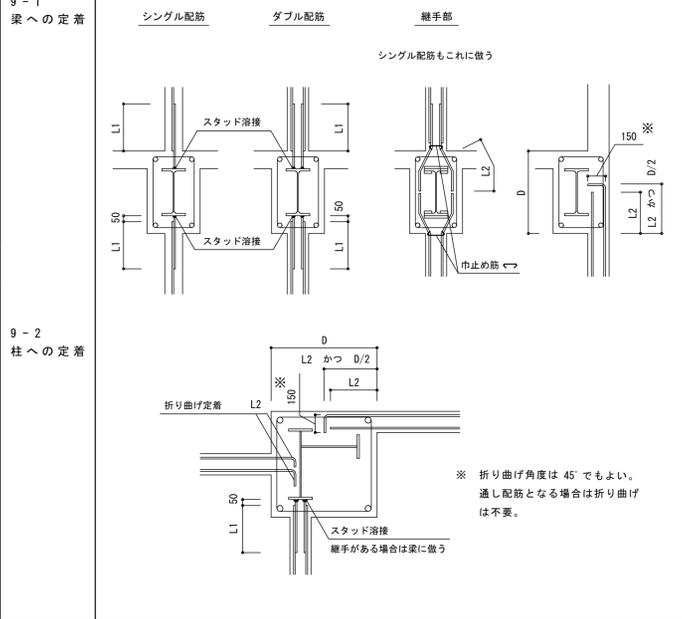
8-1 帯筋・あばら筋

§8 帯筋、あばら筋



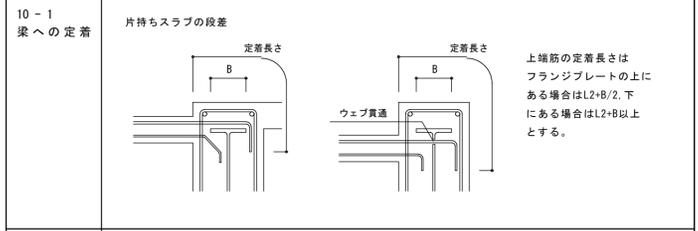
9-1 梁への定着

§9 耐震壁の配筋



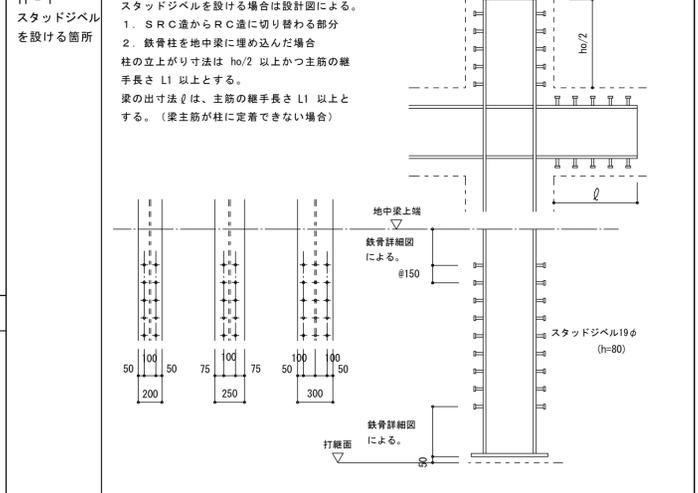
10-1 梁への定着

§10 片持スラブ



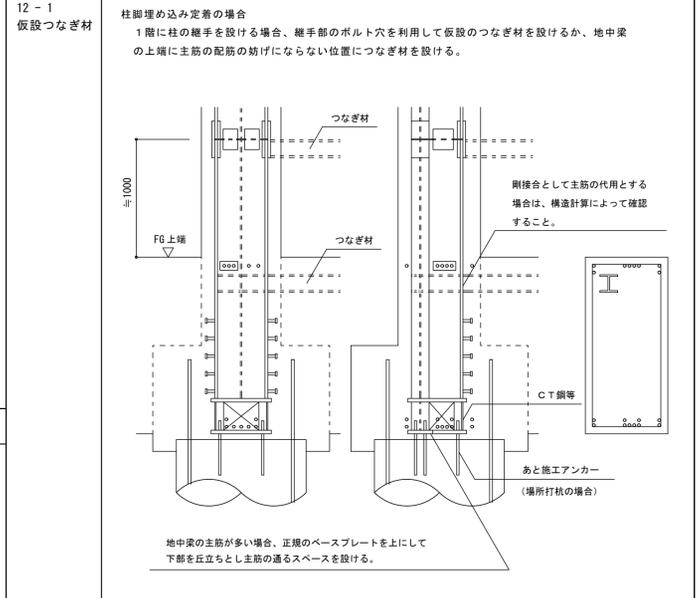
11-1 スタッドジベル

§11 スタッドジベル



12-1 仮設つなぎ材

§12 柱脚



12-2 杭の偏心

§12 柱脚

